(I, II, III—1例ずつ, IV—3例) である．VURのGradeとDMSA摂取率には，相関関係は認められなかった．

$^{99m}$Tc-DMSAによる腎摂取率の測定は，腎実質機能をよく反映し，術後の評価を含め，小児にも応用できる簡便かつ有用な検査法と考えられた．

### 4. 前立腺癌のStage診断におけるMRIの意義（第1報）

藤野　淡人　　呉　　幹純　　池田　　滋
石橋　　晃　　（北里大・泌）
田所　克己　　菅　　信一　　（同・放）

MRIにより前立腺癌のstage診断を試み，前立腺全摘出標本の病理組織診断との相関性を確認するとともに，経直腸的超音波断層法(TRUS)によるStage診断と比較検討したので報告する．

使用装置は0.5 T, 超電導MRI装置により，スピンエコー法を用い，$T_1$強調画像SE (300～400/25), $T_2$強調画像SE (2000/60～120) にて撮像した．TRUSに際しては5.0 MHzイス型ラジアルスキャナーを用いた．対象は直腸指診，PAP-RIA, $\gamma$-Su, および全身骨スキャンによるClinical stage Bの4症例で，その内訳は$B_1$; 2例, $B_2$; 2例であった．

MRIによるstagingではstage B; 3例，$C_2$; 1例で，TRUSによるstagingではstage B; 2例，$C_1$; 1例，$C_2$; 1例であった．リンパ節郭清術を含む全摘出標本の病理組織診断ではstage B; 2例，$C_1$; 1例，そして$D_1$; 1例であった．MRI, TRUSともに精嚢浸潤を検出しえたが，被膜外浸潤を認めた1例で，MRIによる検出がなされなかった．

### 5. 骨シンチグラムでDoughnut signを示した腹壁外デスモイド腫瘍の一例

長瀬　勝也　　鈴木　　賢　　趙　　成済
（順天堂大・放）
内海　仁司　　（同・循内）

労作性狭心症の症例で下肢に浮腫をきたし来院，血液検査で高度の貧血をみとめ精査のため入院となる．

入院後左下腿の浮腫とともに腓腹筋部に硬い腫瘤を触知した．骨シンチグラフィを施行し腫瘤部にDoughnut signをみとめた．

下肢の腫瘤は手術により腹壁外desmoid腫瘍であった．

desmoid腫瘍は腹壁外への発生および高齢者では稀とされ，骨シンチグラフィで周囲が濃染されDoughnut signを示した一例を経験したので報告した．

### 6. 疲労骨折の骨シンチグラフィー（最近経験した症例について）

山岸　嘉彦　　大石　卓爾　　田島なつき
鍛　喜美恵　　齋藤　了一　　高岩　成光
奥山　　厚　　佐藤　雅史　　五十嵐義晃
渡部　英之　　（日本医大・放）

疲労骨折は過労性骨障害とも呼ばれ，同義語として，stress fracture, fatigue fracture, march fractureなどがある．いずれにしても，正常な骨組織に一度では骨折を起こさせない程度の外力が繰り返し加えられて，骨の過労により骨組織の中絶を起こしたものと定義されている．

われわれは最近1年間にスポーツが原因と思われる，疲労骨折8例を経験し，単純X線像と骨シンチグラムを比較検討した．全例に$^{99m}$Tc MDPの高い集積がみられ，その中の2例には，単純X線写真では，異常が認められなかった．2回以上シンチグラフィーが行われた3例では，いずれも症状の軽快，治癒とともに集積は減少または消失した．

疲労骨折に対する骨シンチグラフィーは，早期発見，経過の観察に有用であり，興味ある症例を供覧した．

### 7. $^{99m}$Tc-MDPの骨外転移巣集積がみられた骨肉腫の3症例

猪狩　秀則　　小野　　慈　　中村　　豊
伊勢　俊秀　　（神奈川がんセ・核）
櫛田　和義　　村山　　均　　（同・整外）

骨シンチにて骨肉腫からの肺，軟部組織転移巣が陽性となった3例を経験した．

症例1：31歳男性．左大腿骨遠位部原発の骨肉腫．初回骨シンチにて原発の腫瘤と髄内進展への強い集積がみられたが，そのほかに肺に2か所小さな集積があった．胸部X線像では異常陰影は検出されなかった．その後

Presented by Medical*Online